

「渋川」の由来について

新市の名称は「渋川市」となりました。そこで「渋川」の名の由来についてひもといてみましょう。

古史に見える渋川

渋川が古史に見えるのは、渋河氏として歴史上に記されている『吾妻鏡』、『鎌倉年代記裏書』、『保曆間記』、『承久兵乱記』、『將軍執権次第』、『梅松論』、『太平記』などがあり、貞和4年の懸佛に「渋河金屋天王、渋河閑坊」、『神道集』に渋河保などが記載されている。

渋川氏の祖としては、足利系渋川氏の祖で、足利泰氏の子兼氏（のちに義顕）が渋川の地を得て、渋川姓を称するようになったであろう。建武2年（1335年）北条時行が挙兵する中先代の乱に、武蔵女影原において、渋川義季を大将として戦った兵の中に、石原、湯上（行幸田）、有馬、神戸（有馬）、中村、大崎など大部分は渋川地方の武士であり、それぞれが土着地の姓を名のっており、渋川氏も渋川へ土着して渋川姓を名のったと考えられる。

渋川地名の起源

渋川姓を称する武士が土着する前に、既にシブカワと呼ばれていたとすれば、なぜシブカワなのか、先人の諸説を記してみる。

1 澁の字から

渋川の平沢川は、黒沢、中ッ沢、砂居沢の3つの川が、入沢あたりで合流し、3つの川を止める「澁」の字から渋川とした。（地名学上からは、古い地名の合成（作字）地名は考えられない。）

2 川のシブることから

利根・吾妻の2大川は、渋川の落合で合流し、川幅を拡げ、水勢が急にゆるやかにシブることからシブカワとした。

3 川の流れの色から

吾妻川上流の温泉地帯から流れる水のため、川底の石が茶褐色に染まっていることから（渋川だけではないので根拠がうすい）

4 昔、渋川に温泉が出ていた、その流れの色から

5 製鉄の鉄滓のサビ色から

入沢西方、中砂居沢は製鉄遺跡と思われる「鉄滓」が多く川の流れの中に存在している。このサビ色が川を染めていた。

6 旧地名「渋沢」から

渋川と金井の境に「渋沢の泉」があり、これが「渋川」の元であると古くから地元では言い伝えられている。また、真光寺文書に「渋沢庄渋川村」と記されている。渋沢のあたりが古い渋川の発祥の地であろう。

渋川市の地名（編集渋川地名研究会・渋川市教育委員会）より抜粋

市町村の合併担当窓口

協議会を構成する市町村の合併担当窓口は次のとおりです。会議資料や会議録を各市町村の担当課窓口で閲覧することができます。

渋川市 企画部企画課

☎22-2111(代)

伊香保町 政策調整課

☎72-3155(代)

小野上村 企画観光課

☎59-2111(代)

子持村 企画課

☎22-7726(直通)/24-1211(代)

赤城村 企画課

☎56-9216(直通)/56-2211(代)

北橋村 企画財政課

☎52-2102(直通)/52-2111(代)

編集後記

毎日寒い日が続きますがみなさんはいかがお過ごしでしょうか。

寒いときは温かい“温泉が一番”ということで、今回は各市町村の日帰り温泉施設を紹介してみました。この地域が温泉を湧出する豊かな魅力ある地域であることを深く実感しました。

これからも新「渋川市」の魅力をこの紙面を通じて紹介していきたいと思っています。

会議
予定

第7回協議会 平成17年2月28日(月) 午後2時(渋川プリオパレス)

※会議は傍聴することができます。傍聴したい方は直接会場にお越し下さい。